

令和7年度 事業報告書

社会福祉法人 はーとらんど

特別養護老人ホーム ハートランド五條

ハートランド五條 短期入所生活介護

ハートランド五條 デイサービスセンター

ハートランド五條 ケアプランセンター

社会福祉法人 は一とらんど 事業報告

1. 基本理念

『常に患者様と向き合い、患者様の立場に立ちその場その時に応じた最良の医療サービスを提供する』

2. 各サービスにおける基本方針

特養・ショートステイ

- ・プライバシーを守り、個人の尊厳を尊重します
- ・自立した日常生活がおくれるよう、残存機能に応じた支援を行います
- ・地域の方との交流を通して人にやさしい、あたたかい施設づくりを行います
- ・日々研鑽を重ね知識・技術・人間性を磨いていきます

デイサービス

- ・世代間交流を持ち社会参加の機会を作る
- ・利用者様および家族様の要望に応じたサービスを提供する
- ・安全、安心、快適な生活が送れるよう支援する。
- ・サービス利用の希望に対して、速やかなサービスの提供を行います

3. 利用者の処遇方針

①生活支援

- (1) 介護保険制度に沿ったサービスの提供により利用者の生活支援を強化する。
- (2) 入居者個人の尊厳の保持を趣旨として生活における意向や希望を尊重する。
- (3) 家族といつでも会えるという安心感が持てるよう支援する。

②介護

- (1) 生活リハビリをととし入居者のADLにあった残存機能の維持。
- (2) 専門的視点による観察力を強化し医療と介護の連携。
- (3) 生き甲斐を引き出せるような生活の場の提供と支援。
- (4) 入居者の精神的な自立を促し利用者同志の交流を図れるよう支援する。

③看護

- (1) 入居者の健康管理及び自立に対する支援。
- (2) 医師、歯科医と連携して利用者の健康ケアに努める。
- (3) 看護・介護の連携を強化し質の向上。
- (4) ターミナルケアについて家族の意向にもとづいて他職種や医師等と連携をとりながらできるだけ本人、家族の希望に添えるよう支援するための基盤を整備する。
- (5) 職員の健康管理。
- (6) 事故予防・感染症予防対策及びその指導。

4. 令和7年度目標値

特別養護老人ホーム	47.0名/1日平均
短期入所施設	7.5名/1日平均
デイサービス	24名/1日平均

4. 令和7年度方針

課題解決に向けた取組

① 生活環境、生活空間維持継続

課題	利用者様の生活環境並びに勤務環境の清潔維持と安全な空間維持
実行計画	1. 環境チェックの継続と利用者様へ視点を向けて清潔維持を継続できるように支援 2. 生活空間の視覚的な清潔強化の意識づけ 3. 感染予防と清潔維持の関係性の教育
結果	利用者の清潔及び安心・安全な生活環境を整備するために、引き続き、環境チェックを継続し5Sの徹底を図った。「不備・汚い」のチェックは減少し、概ね、清潔で整頓された生活環境を維持できた。また、重大な感染症まん延は無く経過することができた。しかし、感染予防行動において、環境消毒や清潔維持の意識が不十分な部分もあった。今後、看取り介護の取り組みを進めていく中で、清潔・安全・心地よさの視点を持った環境整備が重要となる。感染予防の意識強化も含め、さらなる5Sの徹底を図ることとする。

② サービスの質の向上

課題	利用者・利用者家族、職員・組織への心遣いの意識の再構築と職員間のコミュニケーションによる連携強化
実行計画	1. 内部通報の相談窓口を活用し、現場からの声、組織全体でのコンプライアンス違反の無いような取り組みを行うためにも、コンプライアンスを加味したハラスメント研修を定期的に行う。 2. 職員間の連携、家族との関係性を構築していく。 3. 職員間のコミュニケーションの活性化に取り組み、個々の責任ある連携の構築。
結果	コンプライアンスを加味したハラスメント研修、倫理研修を実施した。また、家族参加のサービス担当者会議を開催したことにより、家族へ利用者の生活の様子や身体的な状態、予測されるリスク等を多職種が情報共有した上で、タイムリーに報告・相談できた情報共有を密にし、小さなことも相談することで、職員間・家族との関係性を築くことができたと思われる。職員個々が責任を持ち、連携を意識して行動できた。多職種・家族との連携は不可欠であり、職員が個々に連携を意識し行動することは、看取り介護を進める上でも非常に重要と考える。

③ 人材確保・教育

課題	人を育てる意識の強化
実行計画	1. 勤務環境における介護実践の効率化を定着できるようマネジメントの考え方を支援し現在勤務している職員、新規雇用の人材定着を目的として離職につながる現場環境の要因の理解を行う。 2. 教育者の育成、雇用人材に合った教育プログラムの定着と推進を実践。 3. 人材不足の課題は常に存在していることから、一人一人の職員が大切であるという認識を基に部署を超えた協力体制を強化し、連携を主軸として質の向上を目指す。 4. 質の保証のために職員の介護・看護の統一、目的のある介護・看護の実践
結果	現在特定技能実習生7名雇用し、外国人の教育プログラムを作成し、プリセプターをつけ支援を行い定期的な面談を実施。現段階で、個々の能力には差があるが順調に成長し現場でも適応できていると考える。 日本人の雇用がストップしており、新たな雇用が行えた段階で実施できるよう準備は行っている。

④ 感染症対策

課題	施設内において感染症の発生の可能性がある
実行計画	1. 感染症に対する意識の低下を防ぐ為に、定期的に実践を踏まえた研修会の実施。 2. 注意喚起を常に行い意識強化 3. 清潔な環境の維持
結果	令和7年度においては、インフルエンザやコロナ感染症、ノロウイルス感染症拡大は生じなかったが、感染症の発生が無い状況下では感染症に対する意識が低下し、従来の感染対策が実施されない傾向が確認される。そのため、都度感染症の拡大予防を意識できるよう、アナウンスは必要である。

⑤ 経営の安定化

課題	入所・短期入所における稼働率を上昇させる必要がある。 令和6年介護報酬改定により、加算算定を見直す。
実行計画	1. 安定的な固定収入を確保していくためにも、短期入所・特養を合わせ利用率を90%、稼働率を93%と設定し、入所・短期希望者の早期の受け入れを行っていく。 ただし、短期利用者で入所希望がある場合、短期入所の利用者数の状況により一時的に短期入所に対応していく。 2. 入所においては、居宅との連携を強化し、入所対象者の優先的な入所を進めて行く。
結果	介護報酬については、令和8年度に臨時改定、令和9年に報酬改定があることから、算定可能な条件を整理し準備を行っている状況である。 ただ入所の稼働率を上昇させるために、新規での入所を受け入れてはいるが、退所者、入院者の増加により利用率が低下しているのが現状である。 今後において、入所者の固定人数を安定させることを優先としている。 短期入所については利用率の減少が著しいため、外部ケアマネジャーへのアナウンス等への短期入所の取り組み等をアナウンスし、まず、新規の受け入れを増加させることを目標とする。

⑥ 看取りケアの導入

課題	看取りケアの導入
実行計画	看取りケアを行っていくにあたり、看取りケアに関する教育、施設内における体制整備、協力医療機関との連携、家族の意向に沿った介護実践の計画と準備を行って
結果	看取り支援について、“看取りの指針”整備等は整備を行い、看取り加算算定が行えるよう準備を整えた。 看取りについては、支援が整った後3件の実績であり、実績から新たな支援が行えるよう準備を整えている段階である

2025年度 看護室・介護室目標

1. 生活環境・生活空間の安全確保と清潔維持継続
2. 施設内の全職員間で情報交換・情報共有を確実に行う（チームケア・連携）
3. 看取りに関する知識を習得する（看取り介護を学ぶ）
4. 常に感染症に対する意識を持ち行動する（感染拡大0を目指す）
5. 効率化を図る業務改善を行う

結果：生活環境の整備・清潔保持に関し、5Sに取り組み一定成果が出ている。終の棲家としての環境作りに注力し看取り期における心地よさの視点を意識した環境整備に一步進めていく必要がある。看取り介護体制を構築し、実際に看取りも経験し、多職種連携、情報共有の重要性、チームケアの必要性を理解し行動することができたと思われる。看取りケアを推進していくことで、環境整備、チームケア、感染予防対策を含めた清潔保持と入居者

の体調管理について実感し意識して行動することにつながる。延いてはケアの質向上に繋がる。業務改善についても自分たちの身の回りのことを振り返り、小さなことから改善活動を行うことが徐々にではあるができてきている。

入居者の健康維持及び、看取り期の安心・安全な心地良いケア等、専門職としての力を発揮しご本人やご家族が満足できるケア提供ができるよう、さらに業務の効率化を進めていく必要がある。

*1～4 は、上記「令和7年度方針」及び「委員会別具体的目標」の結果を参照

5. 委員会別具体的目標

各委員会の活動強化

〈リスクマネジメント委員会〉

- ① 「事故・ヒヤリハット」に対する知識を身につけ実践に生かすことができる
 - ・ 年2回の施設内研修を実施する
 - ・ 実際に起こった事故・ヒヤリハットについて必ず振り返り、フロア介護等で（毎月1回）話し合う
 - ・ 危険なこと、予測される事態について気づく力を向上させる
- ② ヒヤリハット（ISOレポート）の件数を20%増やす
 - ・ どの場面が「ヒヤリハット」にあたるのか実際に起こった事案について気づきや原因・要因・対応策をフロア全体で意見交換し共有する
 - ・ 利用者のADL・身体機能・認知機能の変化をスタッフ間で共有する（リスクを察知する）

結果：事故・ヒヤリハットの報告ごとに、「事故カンファレンス報告書」の記載を徹底した。本人・職員・環境面それぞれの要因・原因を丁寧に分析することで、ADLや身体状態、認知機能、性格や習慣などをアセスメントし「視る視点」「気づく力」を養い、危険な事・予測される事態について考えることができるようになってきた。ヒヤリハット件数も前年度に比べ、3倍となり少しずつではあるが成果が出ている。このことは、現場で予測されるリスクを回避ができていた結果ともいえるが、事故も起こっているため、ヒヤリハット件数が少ないと思われる。研修については、ヒヤリハットの必要性、気づく力、アセスメント力向上等の内容で2回/年実施した。

事故・ヒヤリハットが発生した際、問題点を明確にして、同様の事故・ヒヤリハットを軽減することができることと、常に危険因子となるものを想定した行動をとることができることが必要であると考えた。

〈感染症対策委員会〉

- ① 感染症を持ち込まない・拡げない行動をする
 - ・ 個人用消毒液を携帯し一処置一消毒の徹底及び、利用者の手指消毒の徹底
 - ・ 常に感染症を意識する
 - 個人用の消毒液の量を確認し、消毒液の減りが少ない時は委員が各フロアへ発信する
 - ・ 換気の徹底。
 - ・ 感染ハイリスク者を把握しておく
 - ・ 状態変化時の情報共有、報告を迅速に行う
 - （バイタルチェック・一日3回の検温の継続実施）
- ② 環境整備・清潔保持の実践
 - ・ 尿路感染の予防：おむつ・パッド使用（バルン挿入）者に対し陰部清潔保持の介助方法のスキルアップを図る
 - ・ 口腔内の清潔保持：口腔内の状態・口腔ケアの現状把握と個々に合わせた適切な口腔ケアの実施年間を通し現状把握と評価を行う
 - ・ 生活環境において、感染源となるものを知り感染防止対策を実施（清掃・共有物の消毒・利用者の身なりの清潔保持等）
- ③ 感染症に対する実践的な研修を実施
 - ・ 継続的に感染症予防に対する意識を強化し、適切な対応技術を身に着ける
 - ・ 災害時の感染予防対策を知り、不測の事態が生じても感染予防を意識して行動する

結果：重大な感染症まん延は無く経過することができた。しかし、環境消毒や感染予防行動の手順の不備があり、予防行動としては不十分だった。今年度後半、ウィルスマッシュの使用量が減少し、環境消毒を怠っていると考えられる使用量だった。感染症が発生していない現状に、気の緩みがあり意識に欠けていたといえる。職員の予防行動の徹底が重要であり、環境整備、整容も含め、細かい点について予防行動をチェックし引き続き、指摘・指導をする必要がある。

研修については、感染予防対策の研修を実施できた。尿路感染症に対する研修を実施し、暫く尿路感染者は無かったが、今年度後半から再度発症がみられ、危機感が薄れた状況が見られた。注意喚起、ケアの徹底を委員会から発信した。また、膀胱カテーテル留置者も増加し、観察ポイントやケアのポイントの研修も実施した。

新興感染症も今後起こりうるため慌てないように対応できるよう、災害時に対するBCPの研修でも感染を取り入れた。災害時の感染予防行動を考えることができる机上訓練研修を実施できた。どのような不測の事態が生じるかわからず、少しでも落ち着いて感染予防を意識し行動できるように研修は続けていく必要がある。口腔内の清潔保持については、個別ケア及び個別の口腔ケアグッズを検討し対応したことと、毎月、歯科衛生士による口腔ケア及びケアの指導を実施している。

高齢、基礎疾患のある要介護状態の利用者は、感染により重症化し、入院に至ることを意識して介護ケアを実施している。健康維持・生活継続と収益安定を図るため、感染予防対策は非常に重要であることを職員一人一人が認識しなければならない。啓発と予防行動の実行状況の把握を行っていく必要がある。また、各部署のリーダーも認識を深め、感染対策を重要視し、行動の確認・指導を行ってもらう必要がある。リーダー層の指導も強化する必要がある。

〈身体拘束・高齢者虐待防止委員会〉

- ① 身体拘束と考えられる介護をしない！させない！
- ② 利用者様の個別に合わせた介護実践と尊厳を守る対応の実践
①②については利用者の行動を制限する行為や高齢者に対する虐待行為を禁止すること、施設利用者に対して職員が尊厳ある行動や言動が行えることを目標とする。
- ③ 個々に合わせた適切なケアの実践
看護・介護室の年間目標を踏まえ、介護・ケアの振り返りを行い実践検証することで統一した介護、適正な介護を実践していくことを目的とする。

＜活動内容＞

- ・虐待の芽チェックの継続
チェックが多かった項目に対し、各部署で目標を立て行動の改善を図る
- ・身体拘束になりうる言動や不適切なケアがないかどうかの振り返り
- ・本人に寄り添った個別ケアについて話し合う（フロア会議・サービス担当者会議等）
- ・内出血斑件数の把握 センサー使用の把握
- ・職員のストレスや働き方の状況の分析
- ・現場のニーズを反映した研修内容の検討・実施（身体拘束防止研修2回・高虐防止研修2回）
- ・職員のメンタルヘルス、相談でき話し合える環境作り（フロア会議や雑談でのストレス因子の共有）
- ・利用者・家族からのクレーム内容の把握と改善に向けての対応の検討

結果：虐待の芽チェックを実施することにより、身体拘束になりうる言動や不適切なケアが無いかどうかの振り返りを行う事ができた。しかし、各部署ともチェックが多かった項目に対して、フロア会議等で行動改善の発信が弱かったため、虐待の芽チェックが生かされるよう委員会を中心に改善を図ることとする。

本人に寄り添った個別ケアができるようサービス担当者会議・フロア会議等で個別の関り方やケア内容を話し合い、本人に合わせたケアの実践ができた。リスクマネジメント・適切なケア実践の視点を持って話し合うことができるようになった。研修については、現場の実態を把握し、実際の言動を振り返り、現場の課題に則した内容とし予定通り実施できた。

職員数の減少に伴い、身体的・精神的負担があるのは否めない。しかし、部署ごとに相談する場を設け、スタッフ個々にあった業務内容の提案、業務内容の改善等をチームで行うことができた。また、ケアのやりにくさや理不尽なことなどスタッフ間で共有し、ストレスを緩和できるよう対応できていた。

重大なクレーム事案は無かったが、不適切なケアに繋がる事案については委員会でも共有し、各部署でも意識できるようにした。

〈褥瘡対策委員会〉

- ① 褥瘡発生・悪化を予防する
 - ・看護・介護・栄養部門との身体情報交換を密にし連携を行う
 - ・看護による看護による褥瘡マネジメントを実施しケア計画書を作成する（褥瘡ケア加算導入する）
 - ・褥瘡発生予防・発生時の対応について知識・技術を身に着ける
 - ・事例を通しポジショニング・シーティングの見直し・検討
- ② 生活環境・ADLを把握し、褥瘡予防・皮膚トラブル防止のための個別対応の強化
 - ・看取り期の褥瘡発生予防と発生時の対応
 - ・個人に合わせたポジショニング・シーティングに使用するクッション・座布団などを適切に選択できるよう施設として紹介できる体制作り
(新規利用時や必要時に家族や職員に提案できる体制をつくる)
 - ・生活スタイルや食事、運動など総合的なアセスメントを行うためにフロア会議、サービス担当者 会

議、褥瘡委員会で利用者の変化に合わせた対応方法を話し合う

…LIFE を活用（多職種で記入・情報共有する）

- ・体調の変化に合わせタイムリーにリスクを予測し個別対応を行う。
- ・事例から学びを深める。

結果：看護・介護で情報共有・連携ができ、褥瘡発生はあったものの早期に相談し改善策を実行しながら悪化防止・治癒できた。また、褥瘡予防・シーティング等を学び、現場でのシーティング対応に変化があり学習の効果があつた。体調や個別的な情報を収集し、それらの情報を活用することで体調の変化に応じた個別対応を考えることができた。褥瘡ケア加算についても導入するベースはできた。

〈教育委員会〉

- ① 基本的知識・技術の向上と専門的知識を活用できる人材の育成
 - ・認知症ケア・ユニットケアの知識・技術を習得し適切な対応を身に着ける
 - ・個別の視点を持ち、必要なケアを見極める観察力・情報収集力・アセスメント力の習得
 - ・看取りケアの知識と技術を身に着ける
- ② 専門職として「人を育てる意識」を持ち、共に学ぶ姿勢を持つ人材の育成強化
 - ・チーム連携・責任ある行動を実践できる介護チームの育成支援
 - ・チームを導き連携・連動できるリーダーの育成強化
 - ・新入職介護職員の育成支援・教育の継続（海外人材を含む）
 - ・チームの要となりチームを牽引できる中堅職員の育成
- ③責任を持ってチームケアを実践できる職員の育成強化
 - ・専門職としての責任ある言動ができる職員の育成：報連相の徹底 優先順位 責任感 リスク予測
 - ・連携力・チーム力の強化→組織力の向上を目指す→ケアの質向上につなげる

結果：施設職員・看護介護専門職として実践を通し認知症ケア・リスクマネジメント・不適切なケア等の視点からアセスメントし、個別ケアへつないでいくことができるようになってきている。看取り介護研修も看護職員が中心となり4回/年実施できた。基本的な学習・実践はできていると思われる。認知症ケア・ユニットケアを基本に看取りケアの質向上を目指し、基本的学習と共にチーム力を強化できるよう一歩進めた教育が必要と考える。家族も含めたチームとしてケア展開ができることと、個々の職員の能力向上とチーム育成が重要と思われる。

5. 法人役員・評議員の現員数

理事：6名 監事：2名 評議員：7名

任期

理 事：令和7年6月23日から2年間 令和9年に選任予定

（令和9年度、会計年度最終のものに関する評議員会終結まで）

監 事：令和7年6月23日から2年間 令和9年に選任予定

（令和9年度に終了する会計年度最終のものに関する評議委員会終結まで）

評議員：令和7年6月23日から4年間 令和11年に選任予定

（令和10年度に終了する最終会計年度の定時評議員会の終了の時まで）

5. 職員の体制

＜特別養護老人ホーム ユニット・ショートステイ 令和8年3月31日時点

職 区 分	現員	備 考	職 区 分	現員	備 考
施 設 長	1	デイサービス兼務	看 護 職 員	8	非常勤3名
事 務 員	2	障害者雇用含む	管 理 栄 養 士	1	
生 活 相 談 員	1	社会福祉士	介護支援専門員	1	施設ケアマネ
介 護 職 員	39	非常勤 15名	医 師	4	嘱託
介護助手	4	うち派遣 1名	清掃	2	非常勤1名
機能回復訓練員	1	鍼灸師（嘱託）	派遣職員	2	介護職員

＜デイサービス＞

職 区 分	現員	備 考	職 区 分	現員	備 考
管 理 者	1	特養兼務	生 活 相 談 員	1	社会福祉主事任用者
介 護 職 員	7	派遣職員3名 特養兼務1名	看護職員	3	非常勤1名 特養兼務1名

<その他>法人全体での人員移動

- 看護職員退職人数 0名
- 介護職員退職人数 10名（非常勤含む）
- 介護職員の平均年齢： 45.0歳（昨年より2.5歳上昇）
- 介護福祉士の総数： 12名（昨年度と同数）

6. 各サービスごとの事業報告契約

1) 特別養護老人ホームハートランド五條（ユニット型）

入居の状況（令和7年4月～令和8年3月31日） 月末閉め人数

令和7年度	入居者数（月末人数）			満床時延べ人数（人）	定員（人）	延稼働実人数（人）	月間延空床数（人）	月間外泊・空床率1日平均（%）	年間平均利用率（%）
	男性	女性	合計						
4月	4	37	41	1500	50	1215	121	19.0%	84.8%
5月	3	37	40	1550	50	1225	325	21.0%	
6月	4	37	41	1500	50	1220	280	18.7%	
7月	4	37	40	1550	50	1259	291	18.8%	
8月	5	37	42	1550	50	1262	288	18.6%	
9月	8	37	45	1500	50	1323	177	11.8%	
10月	8	37	45	1550	50	1344	206	13.3%	
11月	8	37	45	1500	50	1309	191	12.7%	
12月	8	38	46	1550	50	1384	166	10.7%	
1月	8	38	46	1550	50	1372	178	11.5%	
2月	8	36	44	1450	50	1176	274	12.9%	
3月	8	36	44	1550	50	1342	208	13.4%	

令和7年度においては、空床、外泊、入院に伴う空床率は年間平均15.2%の結果であり令和6年度の空床%より0.8%改善し、年間利用率においても3.1%改善した。

今年度においては、少しずつ入所者が増加し、感染症の集団発生も無く、安定はしていたが、入所者数が退所者数と同数であり、急激なベッド利用率には至らなかった。

令和7年度 入退居の状況

(人)

状 況	入 居				退 居				
	在 宅	SS	他施設 ※1	医療機関	在 宅	地域密着	他施設 ※1	入 院 ※2	死 亡 ※3
小計	1	9	0	3	0	0	0	7	5
合計	13				12				

※1 特養、グループホーム、老人保健施設など介護保険の施設。

※2 入院時の身体状況により家族からの退居の申出によるものと、入院期間が3ヶ月経過したための退居された方。

※3 医療機関への転院及び転院後、入院中に医療機関で死亡された方。

- ・ SSとは、当施設ショートステイを長期利用もしくは定期利用しながら入居待機をしてい

る方の入居で、ショートステイ希望の方で特養入居へ希望変更された方、満床のためショートステイで待機されていた方が含まれます。

利用者の状況

①特別養護老人ホーム ハートランド五條 入居者詳細内訳数

介護度別人数

3月末

介護度	1	2	3	4	5	合計	平均
人数(R5年度末)	1	1	13	22	8	45	3.5
人数(R6年度末)	2	0	16	19	5	42	3.6
人数(R7年度末)	2	5	14	15	8	44	3.5

年齢別人数

3月末

年齢	～65歳	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	平均
人数(R5年度末)	0	1	3	15	23	3	89.2
人数(R6年度末)	0	1	3	13	23	2	89.8
人数(R7年度末)	0	0	4	14	24	2	90.2

②ハートランド五條 短期入所利用者数及び介護度平均

3月

介護度	要支援1	要支援2	1	2	3	4	5	合計(人)	平均
人数(R5年度末)	0	0	38	32	14	18	18	190	2.7
人数(R6年度末)	0	0	23	75	62	36	26	222	2.6
人数(R7年度末)	0	2	18	71	48	52	13	205	2.9

③ハートランド五條デイサービスセンター介護度別通所者実人数と介護度平均

介護度	要支援1	要支援2	1	2	3	4	5	合計(人)	平均
R5年度	42	149	256	291	99	59	15	911	1.7
R6年度	61	217	249	387	144	54	12	1124	2.91
R7年度	92	229	227	286	119	84	11	1048	2.13

デイサービス通所者月別延べ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
R5年度	572	631	616	600	624	633	584	550	568	543	570	606	7097
R6年度	606	595	567	617	578	546	613	578	522	486	514	544	6766
R7年度	538	582	535	601	535	561	572	502	506	450	448	483	6313

7. 地域との交流・施設行事

R7年度	施設内行事	地域への施設無料開放教室
4月	吉野川暴れ太鼓 慰問 和太鼓とカラオケ	
5月	各フロアでの誕生会やレク活動	
6月	ひまわりフラの会 フラダンスの慰問	
7月	慰問 昭和歌謡・生歌唱・ギター・ピアノ	
8月	夏祭り 施設内で実施	
9月	敬老会 「夢楽ライブ・生歌・ギター」	
10月	さつき会 慰問 踊り・カラオケ	
11月	各フロアでの誕生会やレク活動	
12月	クリスマス会・餅つき	
1月	各フロアでの誕生会やレク活動	

2月	なかよしこども園 慰問 園児の踊りと歌 節分：豆まき	
3月	各フロアでの誕生会やレク活動	

8. 会議開催の状況

○給食会議

開催時期： 毎月1回

出席者： 施設長、看護師、管理栄養士、事務職員、施設ケアマネジャー、デイサービス職員
日清医療食品株式会社職員（エリアマネージャー・栄養士）

○フロア会議

開催時期： 各フロア毎月1回

出席者： 各フロア職員、看護師、施設ケアマネジャー（状況に応じて施設長、機能訓練士、
管理栄養士、相談員）

議題： 入居者様への対応フロアにおける介護に対する意見交換、改善すべき事項等

○委員会会議（教育・感染症・身体拘束高齢者虐待防止・リスクマネジメント・機能訓練・行事・褥瘡委員会）

開催時期： 原則1回／月

出席者： 各フロア委員、教育長、看護師（状況に応じて機能訓練士、管理栄養士、相談員）

9. 外部研修参加状況

- ・認知症介護基礎研修受講：6・7・8月 介護職員3名
- ・令和7年度南和地域感染症対策研修会：令和7年6月26日 看護師1名
- ・現場で使える！褥瘡予防のためのシーティング：令和7年7月8日 看護師1名
- ・栄養ケアマネジメント研修会：令和7年7月12日 管理栄養士1名
- ・令和7年度吉野保健所特定給食施設等関係職員研修会：令和7年9月3日 管理栄養士1名
- ・令和7年度新型インフルエンザ患者発生対応訓練に係る事前研修会兼感染対策加算カンファレンス：令和7年9月18日・10月23日 看護師1名
- ・令和7年度奈良県老人福祉協議会看護職員研修「施設看護職員の基本的な役割～フィジカルアセスメント・組織マネジメントを深める～」：令和7年10月29日 看護師1名・教育担当長1名
- ・ユニットリーダー研修・実地研修：オンライン研修9月15日～17日・実地研修令和7年11月4日～7日 介護職員1名
- ・令和7年度奈良県老人福祉施設協議会栄養士研究会：令和7年12月8日 管理栄養士1名
- ・令和7年度栄養管理情報連携推進研修会：令和7年12月12日 管理栄養士1名
- ・奈良県介護支援専門員協会研修「災害時のBCPを見直そう」：令和7年12月19日 ケアプランセンター介護支援専門員1名
- ・令和7年度入退院調整ルールづくり支援事業全体会：令和8年1月19日 看護師1名
- ・令和7年度南和地域感染対策連絡会：令和8年2月26日 看護師1名

10. 施設内研修実施状況

- ・毎偶数月一回、6回/年実施 口腔ケア研修
（さくらデンタルクリニック 歯科衛生士実施）
令和7年4月18日・6月26日・8月22日・10月24日・12月19日・令和8年2月20日
対象者・・・介護職、事務職、介護支援専門員、看護師 一回平均3～5人参加
内 容：高齢者の口腔内環境に合わせたケアの方法・口腔内疾患・義歯管理の方法等
- ・新入職時研修・オリエンテーション 入職当日に実施
令和7年4月21日 5月1日 6月13日・23日 10月10日 11月4日 12月22日
令和8年1月6日・7日 2月3日 3月2日・3日・18日
対象者：介護職員 参加者：介護職員（海外人材・派遣含む）10名 介護助手（派遣含む）4名
内 容：基準集・規程集に沿って研修 感染症予防・リスクマネジメント・身体拘束廃止・高齢者虐待防止・ハラスメント防止・労働安全・BCP
- ・リーダー育成勉強会 8回/年

- 令和7年4月7日・5月7日 研修企画・運営・職員の指導について
- 令和7年6月2日 対象に合わせた研修内容と進行・計画書の作成について
- 令和7年7月7日 研修最終打合せ
- 令和7年8月4日 研修後の振り返りの方法・評価の方法について
- 令和7年9月3日 マネジメント・人材育成資料学習
- 令和8年1月5日・2月2日 年間振り返り・介護室と自部署の目標
- 対象者：介護室フロア責任者・デイサービス所長・看護室長 参加者：5名
- ・新入職員研修
 - 令和7年4月1日～3日・4月16日
 - 対象者：新卒者1名
 - 内 容：理念と方針・接遇・社会人として介護職員としての心構え・労働安全・ケアプラン・介護事故防止・身体拘束廃止・高齢者虐待防止・個人情報保護・法令順守・ハラスメント防止・感染予防対応・認知症ケア・ユニットケア 等
- ・令和7年4月16日 自己学習会 おむつの当て方・基礎編
 - 対象者：看護・介護職員 参加者：8名
 - 内 容：おむつの当て方・選び方 パッドを重ねることの弊害 おむつ交換・体位変換・ポジショニングの演習
- ・令和7年4月16・17・19・18・21・23・24・25・26・28日 5月1・4日 褥瘡予防ケア研修
 - 対象者：全職員 参加者：51名
 - 内 容：褥瘡のメカニズム・アセスメント・評価・ケアアプローチ
- ・令和7年5月7・8・9・11・12・13・14・15・17・18・20・21・25日 高齢者虐待防止研修
 - 「その人らしい」を大切にしたいケアを目指して
 - 対象者：全職員 参加者：50名
 - 内 容：なぜ高齢者虐待が起きるのか、もしも虐待に気づいたらどうするのか、グループワーク・発表
- ・令和7年5月20日～6月2日 期間内取り組み 感染予防研修 食中毒予防
 - 対象者：全職員 参加者：61名
 - 内 容：食中毒6つのポイントの資料を読みワークシートの取り組み
- ・令和6年6月4・5・7・12・14・16・17・18・19・28日 リスクマネジメント研修
 - KYT 危険予知トレーニング
 - 対象者：全職員 参加者：55名
 - 内 容：KYT 危険予知トレーニング3事例をグループごとに意見を出し合い注意点とどのような取り組みが必要かグループワークを実施・発表
ヒヤリハットから事故予防をすること・対応策を考えること 等
- ・令和7年6月18・19～26・28・29日 7月1～5・20・22・23日 8月30日 看取り介護研修
 - 対象者：全職員 参加者：51名
 - 内 容：看取り介護の基本的な考え方・介護施設での看取り・終末期の身体変化
- ・令和6年7月2・5・6・7・8・9・10・11・14・15・18・19・20・22・23・31日 8月29・31日
 - 感染予防研修 尿路感染症予防・陰部洗浄の方法
 - 対象者：全職員 参加者：51名
 - 内 容：清潔で安全な排泄交換と清潔保持のための適切な陰部洗浄の具体的方法
- ・令和7年7月16・23・30日 自己学習会「夜間緊急時の対応～不安や焦りを解消しよう！」
 - 対象者：介護職員・看護職員・事務相談室 参加者：17名
 - 内 容：夜勤者・フリー夜勤者の緊急時の行動、救急車を要請し救急車が来るまでの間の宿直者との連携、緊急時対応受診時の必要物品
- ・令和7年8月1日 褥瘡委員会研修 「車いすのシーティングを学ぶ」
 - 対象者：褥瘡委員会委員 参加者：5名
 - 内 容：①委員会時に車いすに座る体験…車いす座面に何も敷かず、フットレストの足を乗せた体勢で長時間座る体験 ②食事を車いすに座ったまま食べる体験…前傾姿勢での食事、鼠径部が屈曲した状態での摂取など苦痛を体験 ③身体のサイズにあった車いすの選び方、適切なクッションなどを使用したポジショニングや使用方法を検討
- ・令和7年8月6・8・9・10～15・31日 リハビリ体操の必要性 腰痛予防
 - 対象者：介護職員 看護職員 事務職員 参加者：38名
 - 内 容：リハビリ体操の効果と必要性・腰痛予防体操・ストレッチの方法と実践

- ・令和7年8月20～31日・9月1～8日 期間内取り組み 高齢者虐待防止研修
対象者：介護職員・看護職員・事務相談室 参加者：56名
内 容：不適切なケアに繋がる NG ワードについて考える・禁止用語や専門用語の言い換え・相手に合わせて言い換えたほうが良い言葉使い 等 資料研修
- ・令和7年9月3・5日 BCP研修 災害時の対応
対象者：全職員 参加者：20名
内 容：水害発生時及び災害発生時の感染対応・災害図上訓練（DIG）の内容と効果・災害図上訓練の実施
- ・令和7年9月5日 BCP研修 防災講習
対象者：全職員 参加者：9名
内 容：水害時の避難行動（垂直避難時の受け入れ準備）避難誘導、車いす階段移動、マットレスを使用した移動方法など
- ・令和7年10月1・2・4～8・11日 11月2日ハラスメント防止研修
対象者：全職員 参加者：53名
内 容：なぜハラスメントが起こるのか・ハラスメントを防止するための関係性の構築 心理的安全性 対話の重要性 ハラスメントが起こった時の対応と相談窓口
- ・令和7年10月3日 10月15～20日 尿道カテーテルの管理方法について
対象者：介護職員 参加者：18名
内 容：膀胱留置カテーテルとは・観察ポイント・カテーテル留置時のトラブルと対処法・排尿の状態確認のポイント・感染予防のポイント
- ・令和7年11月5・6・7・10～14・17・19・28・30日 12月6日 感染症予防研修
対象者：全職員 参加者：52名
内 容：嘔吐時の適切な対応・処理手順 演習
- ・令和7年11月19・20～23・26～30日 12月1日 看取り介護研修
対象者：全職員 参加者：48名
内 容：「死生観」とは・「死生観」を持つことの意味・看取りケアにおける家族支援
- ・令和7年12月3・10・20～23・26・27日 令和7年1月4～6日 リスクマネジメント研修
対象者：全職員 参加者：45名
内 容：各フロアでの対応困難な利用者の事例検討 利用者の注意点・予測できる行動・どんなリスクが考えられるか・予防策の検討 グループワーク実施
- ・令和7年12月1～10日 期間内取り組み 身体拘束廃止研修 身体拘束廃止の基本について
対象者：全職員 参加者：50名
内 容：身体拘束を無くすために必要なこと・身体拘束に当たる行為・3つの身体拘束（スリーロック）なぜ身体拘束は問題なのか・身体拘束をせずに行うケアとは 等 資料研修
- ・令和7年12月22日～令和8年1月13日 期間内取り組み ステップアップ研修
対象者：看護職員2名・介護職員6名・事務相談員2名 参加者：10名
内 容：①チームワークとは・チームワークが重要な理由②チームワークを高める方法③介護におけるチームワークとは④チームワークが良くない介護施設⑤チームリーダーが必要なわけ 資料を読んでワークシート取り組み
- ・令和8年1月8～10・12～17・24・27・日 高齢者虐待防止研修
「日々の利用者様へのケアは適切ですか？自身の行動・発言・ケアを振り返ろう」
対象者：全職員 参加者：46名
内 容：事例を基に①何が身体拘束になるのか②身体的・精神的影響は？③介護職員としてなぜそのような行動をとるのか④介護職員として適切な対応とは⑤身体拘束にならないように気を付けていること⑥身体拘束になっているのではと思われることをグループで話し合う・発表
- ・令和8年2月5・6～9・14～18日 3月20日 看取り介護研修
対象者：全職員 参加者：45名
内 容：自分たちのしたい看取り介護とは何かイメージを膨らますための研修
家族の面会時の関り・ご本人がどのように過ごしたいか何を望まれるか事例を検討して学習
- ・令和8年3月4・5・7・11～14・20・21・25日 コンプライアンス研修（法令順守・倫理 個人情報保護・プライバシー保護と行動規範）
対象者：全職員 参加者：36名
内 容：法令順守 個人情報保護・プライバシー保護 施設職員としての職業倫理・行動規範

就業規則の確認（ハートランドの職員として）

- ・令和8年3月13・14・16・17日 4月3・11日 看取り介護研修

対象者：全職員 参加者：40名

内 容：臨終から死、施設からのお見送り・臨終時の身体的変化の流れ・家族への連絡を施設職員の責務としてどのように行うか・死後の対応（フローの確認）・エンゼルケア 等
電話連絡は演習を実施

- ・令和8年3月19日 認知症ケア研修 五條市出張研修

対象者：全職員 参加者：17名

内 容：認知症の人の理解・家族の理解 映画「オレンジランプ」鑑賞

- ・令和7年3月26日 防災講習 災害時の対応

対象者：全職員 参加者：5名

内 容：水害時の行動・災害時の車いすでの搬送 徒手搬送 避難時の注意点 消火器訓練